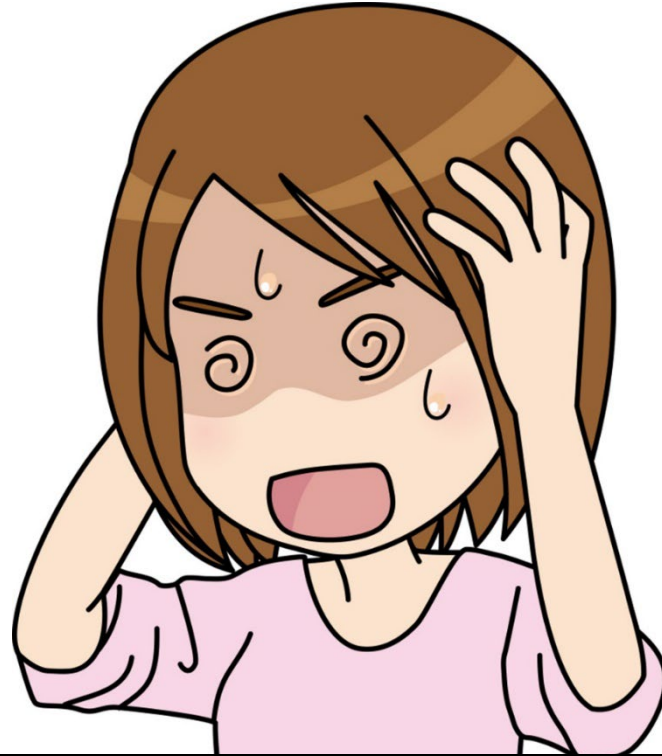


動画の歴史について



動画（動画）には次の2つの意味がある。（歴史の長い用法）アニメーション。動画はもともとは、あくまでアニメーション（animation）の日本語訳である。

動画っていろいろあるけど何がいいの？
これから流行る動画の仕事ってどうすればいいかな？
そもそも動画って今後どうなるの？



未来を知るには過去を理解しよう！

動画の歴史は映画から

・エジソン/キネトグラフ・キネトスコープを発明

発明王エジソンが19世紀末に映画撮影機であるキネトグラフを発明し、その後撮影された映画を見る装置であるキネトスコープを同じく発明した。1893年に開催されたシカゴ万博に出展される。

1889

・日本初の映画館誕生(1896)

TVの時代へ

K.F.ブラウン/ブラウン管を発表(1897)

1900

・ブラウン管テレビ方式の開発(1926)

1926

・白黒テレビ放送開始(1953)
※NHKが白黒放送を開始

・8ミリフィルムカメラ(1958)

1960

・日本初のカラー映画(1961)

・カラーテレビ放送開始(1960)
※有線式リモコンテレビの発売

1959年の皇太子さま(現天皇陛下)ご成婚がテレビ普及のきっかけになったといわれているが、当時電気洗濯機や電気冷蔵庫などとともに「三種の神器」とも呼ばれていた。1960年のカラー本放送開始、民放局の充実、そしてテレビ受像機の低廉化に伴って、1970年代には、カラーテレビの世帯普及率は90%を超えた。その後一家に1台から一人に1台、という時代になっている。

映画	TV	インターネット
TV時代とデジタルへの移行		
<ul style="list-style-type: none"> ・フルCG長編アニメーション(1995) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベータマックスビデオ発売(1975) 	1975
	<ul style="list-style-type: none"> ・VHSビデオ発売(1976) 	1976
	<ul style="list-style-type: none"> ・8ミリビデオカメラ(1985) 	1985
	<ul style="list-style-type: none"> ・BS衛星放送開始(1987) 	1987
	<ul style="list-style-type: none"> ・WOWOW開始(1991) 	1991
	<ul style="list-style-type: none"> ・CS放送開始(1992) 	1995
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用デジタルビデオカメラ(1995) 	1996
	<ul style="list-style-type: none"> ・CSデジタル放送開始(1996) 	<div>1996年にはいち早くCSデジタル放送が始まったが、BSデジタル放送も2000年から開始した。地上波のデジタル化は2003年から開始、2011年7月をもってアナログからデジタルへの移行がBS放送も含めて完了している。</div> <div>デジタル化は同時にハイビジョン化でもある。従来の4:3の標準画角のテレビから16:9へのハイビジョンへ移行される。</div>
	<ul style="list-style-type: none"> ・DVDソフト発売(1996) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・BSデジタル放送開始(2000) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル上映(2005) 	<ul style="list-style-type: none"> ・番組連動型データ放送(2000) 	2000
	<ul style="list-style-type: none"> ・地上デジタル放送開始(2003) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD内蔵カメラ(2006) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーレイディスクソフト発売(2006) 	2006

映画

TV

インターネット

インターネットの登場

2007

・HDD内臓/SDカード内臓カメラ(2007)

・iPhone登場(2007)

・YouTube開始(2007)

・ニコニコ動画(2007)

・BeeTV(2009)

2010

・iPad登場(2010)

・NOTTV(2012)

・3D映画のヒット(2010)

かつては8ミリカメラがあり、一部の人は自分たちで映画を撮影し、自主的な上映をしていた。ビデオの普及は、個人が映像を撮影し、動画コンテンツを作り出す流れでもある。ビデオカメラは記憶媒体がテープからメモリーへと移行して、小型化・軽量化・低廉化が進み多くの家庭に普及するようになっている。

さらには、スマートフォンやタブレットの動画処理機能は進歩しており、スマホで映画をつくり出す学生なども増えてきている。本格的な作品ではなくても、メモ代わりのような動画はSNS上では広く普及し、個人のライブ配信が可能となるようなプラットフォームも登場している。

動画多様化の時代へ

動画配信サービス

・GyaO(2005)

・ひかりTV(2008)

・Hulu(2011)

・Amazonプライム・ビデオ(2015)

・Netflix(2015)

・dTV(2015)

キャッチアップ配信サービス

・TVer(2015)

・各テレビ局オンデマンド

スマートフォン向け編成コンテンツ

・AbemaTV(2016)

ライブ配信

・LINE LIVE(2015)

・Twitter NFL配信(2016)

スポーツ系配信

・DAZN(2016)

スマートテレビ

・Apple TV(2016)

ショート動画の登場

・TikTok(2016)

・Instagramリール(2020)

・YouTubeショート(2021)

まとめ

多様化する動画の世界、まずは
普段から楽しんで使いましょう。

動画っていろいろあるけど何がいいの？

流行るものもあれば流行らないものもあります。まずは流行っているものにアンテナを張っておきましょう。

これから流行る動画の仕事ってどうすればいいかな？

プライベートとお仕事は別。あくまでも仕事として興味を持って理解と知識を高めてみましょう。

そもそも動画って今後どうなるの？

逆に言えば流行ったのはたったのここ十数年のお話です。これから十数年で衰退することも考えられるし、これから長い文化として継承されるかもしれません。ただそれは時代の変化とテクノロジーの変化と共にあります。生活の一部と考えて楽しく向き合っていくことで価値と未来を確認していきましょう。

